

Trias 企業メモ 2010-05-25

(7587 JASDAQ)株式会社 PALTEK
2010年12月期 第1四半期決算説明会サマリー

2010年5月12日、株式会社PALTEK(以下、PALTEK)の2010年12月期 第1四半期決算説明会が開催されました。説明会出席者は、代表取締役社長 高橋忠仁氏、取締役 徳永郁子氏、オペレーショナルサービスディビジョン ゼネラルマネジャー 井上博樹氏です。以下、高橋社長による決算説明の概要をご案内いたします。

【2010年12月期 第1四半期 連結決算概要】

当四半期は、前年同期比 全セグメントで増収となり、連結売上高は15.8%増加の37.9億円となった(一部の大型案件で量産立ち上がりの遅れがあり、対前四半期では減収となった)。利益率の高い中堅・中小企業向け売上が好調であったため、総利益率は17.2%と高い水準で推移した。前期に実施したコスト削減効果により損益分岐点が大幅に改善、営業利益は前年同期の129百万円の赤字に対し、31百万円の黒字となった。

ソリューション/アプリケーション別売上高推移は下表の通り。PLDでは大手顧客や一部の中堅顧客の案件が減少したが、中小顧客向けは堅調に推移した。他ソリューションでも中堅、中小向けが堅調である。アプリケーション別では、携帯の中継局向けが予想以上に減少、産業機器では医療機器向け、放送機器向けが一段落している。民生機器の大幅減は携帯端末向けタッチパッドの減少によるものである。一方中小企業向けのFA関連等うまく分類できず「その他」に含まれる案件が大幅に増加している。

【表1】ソリューション別連結売上高(四半期)

(百万円)	FY12/09				FY12/10 1Q	前四半期比 変化率	前年同期比 変化率
	1Q	2Q	3Q	4Q			
PLD	1,169	897	1,226	1,398	1,291	-7.7%	10.4%
アナログ	661	770	776	809	733	-9.4%	10.9%
ASSP	1,122	1,372	1,542	1,498	1,353	-9.7%	20.6%
メモリ	315	362	388	449	406	-9.6%	28.9%
合計	3,269	3,403	3,934	4,155	3,785	-8.9%	15.8%

※ PLD: プログラム可能な論理回路IC

ASSP: 分野・アプリケーションを限定して、機能・目的を特化させたLSI

【表2】アプリケーション別連結売上高(四半期)

(百万円)	FY12/09				FY12/10 1Q	前四半期比 変化率	前年同期比 変化率
	1Q	2Q	3Q	4Q			
通信機器	770	962	1,100	1,232	1,062	-13.8%	37.9%
産業機器	1,159	975	1,193	1,428	1,318	-7.7%	13.7%
民生機器	540	718	767	485	264	-45.6%	-51.1%
コンピュータ	222	220	228	280	297	6.1%	33.8%
その他	576	525	644	729	846	16.0%	46.9%
合計	3,269	3,403	3,934	4,155	3,785	-8.9%	15.8%

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【2010年12月期 業績見通し】

中堅・中小顧客向けの堅調な売上と粗利率の向上を受けて、上期の売上高予想を76億円から78億円、営業利益を30百万円から100百万円に上方修正した。下期については、以下の状況を踏まえ当初予想を据え置き、通期予想には上期の修正分のみを反映させた。すなわち、WiMAXやLTEといった次世代無線インフラ用途、そして前年度収益に貢献したNEC製超小型マイクロ波通信システム「パソリンク」用途等についての大手顧客からの発注が不透明なこと(これら用途の詳細については、[2010年4月1日付 Trias 企業メモ【見えてきた日本メーカーのチャレンジ】](#)をご参照ください)、またファーウェイといった中国の通信機器メーカーを中心に、東アジア勢によるPLD、アナログ半導体の大量発注がなされており、足元日本市場に供給不足が生じているなどの状況を考慮した。

ソリューション別売上高では、PLDとアナログが上方修正、タッチパッド製品が低調なASSPソリューションが下方修正となっている。なお、下期にかけては、前述のとおり、一部用途に不透明感はあるものの、通信インフラ、放送機器向け等で大口の量産案件の立ち上がりを見込んでいる。これら大口案件は、相対的に利幅が薄いため、粗利率は上期に比べて低下する見通しである。

【表3】第1四半期 連結決算概要

(百万円)	FY12/09		FY12/10		対前年同期		FY12/10 通期(予)		
	1Q	構成比	1Q	構成比	増減額	増減率	2月発表	5月修正	構成比
売上高	3,269	100.0%	3,785	100.0%	516	15.8%	16,800	17,000	100.0%
売上総利益	599	18.3%	651	17.2%	52	8.7%	2,710	2,780	16.1%
販売管理費	728	22.3%	620	16.4%	△ 108	-14.8%	2,560	2,560	15.2%
営業利益	△ 129	-3.9%	31	0.8%	160	n.a.	150	220	0.9%
経常利益	△ 90	-2.8%	30	0.8%	120	n.a.	120	190	0.7%
純利益	△ 123	-3.8%	8	0.2%	131	n.a.	72	100	0.4%

注 2010年12月期予想は、それぞれ2010年2月10日、5月12日発表の会社予想

【環境・エネルギー分野への取り組み】

日系メーカーは、デジタルコンシューマー機器領域において苦戦が続いている。しかし過去にオイルショックや公害問題を経験していることもあり、環境・エネルギー分野では技術的蓄積があるはずであり、特にスマートエネルギーの市場では勝機があると考えている。PALTEKでは4月にスマートグリッド推進部を設置、この分野へのソリューションを検討・構築している。まずは NEDO 主催の「スマートコミュニティ・アライアンス」への参加や「スマートグリッド展 2010」への出展等を通じてマーケティングを強化する計画だ。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【質疑応答】

Q1. 大手と中堅・中小顧客向けの売上状況が違うのは何故だと考えられるか。また、大手、中堅、中小の定義を教えてください。

A1. 当社で言う大手とは NEC やソニーといった大手電機メーカーを指すが、これら顧客メーカーについては、いくつかの大型案件が不振である。中堅はオリンパスやアンリツなどのメーカーで、実態は悪くないが、一部発注が少し前倒しになっていたようで、足元はスローな状況だ。中小顧客向けは、FA 関連や産業機器向けで注文が増えている模様である。この中身は客先の使用用途を完全に把握することが困難であるため、あまり明確になっていないのだが、設備投資の予想以上の回復によるものが半分、太陽光発電装置関連など、従来「新市場」と言われていた分野が急速に立ち上がってきたことによる売上が 2 割程度、そして希望的観測も込めてだが、スマートグリッド等の全く新しいマーケットに関連するものが 3 割くらいではないかと見ている。

(以上)

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

【ご参考】(7587)株式会社 PALTEK

連結主要指標と業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2009.12月	11,849,899
うち自己株式数(株)	2009.12月	420,366
時価総額(百万円)	2010.5.24	3,910
一株当純資産(円)	2009.12月	691.7
ROE(%)	2009.12月	-0.7
ROA(%)	2009.12月	-0.6
PER(倍)	2010.12月予	37.7
PCFR(倍)	2009.12月	-134.8
PBR(倍)	2009.12月	0.5
株価(円)	2010.5.24	330
単元株数(株)	2010.5.24	100
日々平均出来高(株)	2010.5.24	2,180

連結主要データ		
総資産(百万円)	2009.12月	9,102
自己資本(百万円)	2009.12月	7,905
有利子負債(百万円)	2009.12月	0
自己資本比率(%)	2009.12月	86.8
有利子負債比率(%)	2009.12月	0.0
フリーキャッシュフロー(百万円)	2009.12月	578

注: ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均

ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均

PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)

日々平均出来高=過去1年間の平均

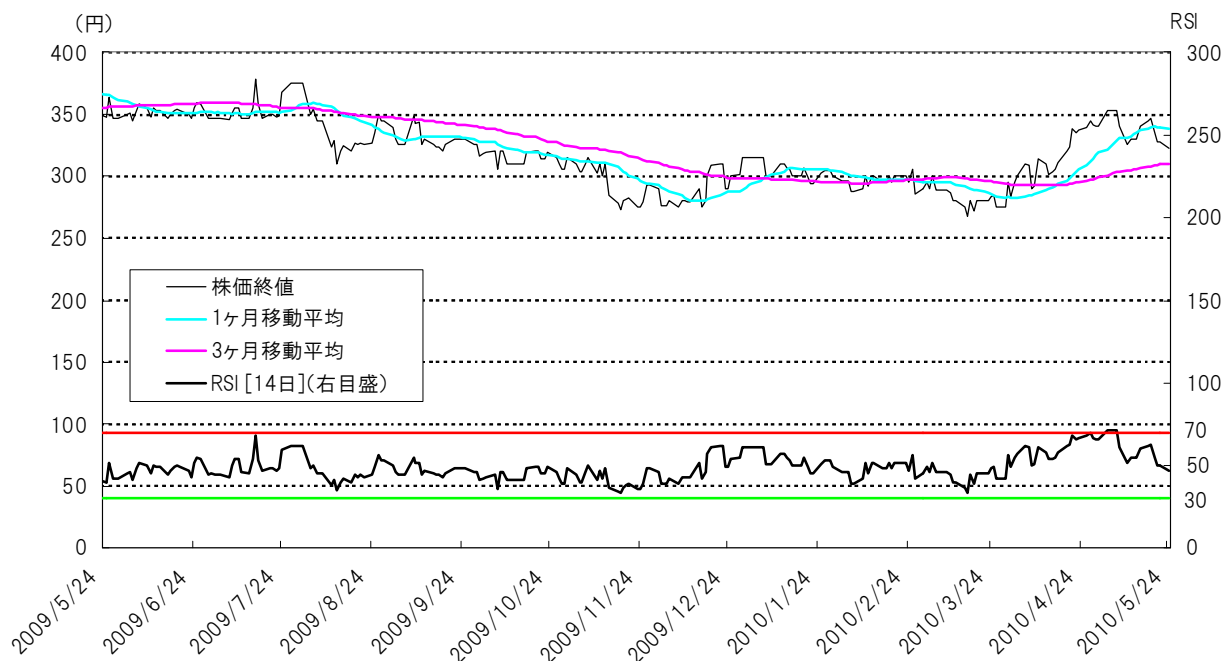
有利子負債比率=有利子負債÷自己資本

フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF

連結(百万円)	売上	営業利益	経常利益	純利益	一株益(円)	一株配(円)
2006年12月期	14,729	△ 412	△ 42	△ 36	△ 3.10	10.00
2007年12月期	20,655	△ 300	△ 222	△ 258	△ 22.10	10.00
2008年12月期	20,726	131	286	59	5.10	10.00
2009年12月期	14,762	△ 182	△ 103	△ 60	△ 5.17	5.00
予2010年12月期 中間	7,800	100	90	40	3.50	-
予2010年12月期	17,000	220	190	100	8.75	5.00

注 2010年12月期予想は、2010年5月12日発表の会社予想

株価チャート(RSI)



出所: Bloombergのデータを基にトリアス作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われている

$RSI = \frac{N日間の値上がり幅平均}{(N日間の値上がり幅平均 + N日間の値下がり幅平均)} \times 100$

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。